



第24回 生研フォーラム「宇宙からの地球環境・災害のモニタリングとリスク評価」



日時:平成28年3月17日(木) 10:00 - 18:30 / 3月18日(金) 10:00 - 12:00

場所:東京大学生産技術研究所 (駒場IIIサーチキャンパス) S棟 1階プレゼンテーションルーム

京王井の頭線 駒場東大前駅または 池ノ上駅 徒歩10分,東京メトロ千代田線・小田急線 代々木上原駅 徒歩15分,小田急線 東北沢駅 徒歩10分

駒場IIキャンパスまでの地図 (<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/access/access.html>)

事務局 連絡先:03-5452-6411 (竹内渉研究室 直通)

*発表時間: 12分,質疑応答: 3分

事前申し込みがなくてもどなたでも自由に聴講が可能です。

キャンパス内に食堂とお弁当や飲み物が購入可能な大学生協があります。

懇親会は実費1,000円を頂いております。当日の飛び入り参加・持ち込みも大歓迎です。

平成28年3月17日(木) 1日目 10:00 - 18:30

9:30

受付開始 S棟1階プレゼンテーションルーム

9:55 - 10:00

開会挨拶 竹内 渉 (東大生研 人間・社会系部門 准教授)

セッションA 森林と農地の観測 (セッションチェア 市井 和仁 (JAMSTEC))

A-1	10:00 - 10:15	空中写真による冷温帯-暖温帯境界域の常緑広葉樹の分布変化検出	○市井 和仁 (JAMSTEC/NIES)・近藤 雅征 (JAMSTEC)・その他1名
A-2	10:15 - 10:30	衛星標高データと森林データを用いた全球スケールでの湿地林モデリング	○山崎 大 (JAMSTEC)
A-3	10:30 - 10:45	ALOS-2/PALSAR2フルポリメトリデータによるレーダ植生指数RVIと現地農地調査結果の対比	○山田 康晴 (農研機構農村工学研究所)
A-4	10:45 - 11:00	衛星LiDARと衛星画像データの融合による高頻度森林構造変動検知システムの構築	○澤田 義人 (国環研)・林 真智 (国環研)・その他2名
A-5	11:00 - 11:15	航空機LiDARを用いた都市スケールにおける 樹木の三次元情報図の作成	○押尾 晴樹 (東工大)・浅輪 貴史 (東工大)
A-6	11:15 - 11:30	Improvement of satellite-based gross primary production by using high resolution in put data in East Asia	○Haemi Park (UNIST)・Jungho Im (UNIST)・その他1名
A-7	11:30 - 11:45	空中写真による冷温帯-暖温帯境界域の常緑広葉樹の分布変化検出	○中国 悦子 (東大生研)・田中 信行 (森林総研)・その他4名
11:45 - 13:15 昼食 (90分)			

セッションB GRENE特別セッション (セッションチェア 今須 良一 (東大 大海研))

B-1	13:15 - 13:30	GOSATによる二酸化炭素、メタンの関東集中観測	○今須良一 (東大大海研)・新井豊 (東大大海研)
B-2	13:30 - 13:45	アフリカにおける GOSATで観測されたメタンと二酸化炭素の比率	○林田 佐智子 (奈良女子大)・小野 朗子 (奈良女子大)
B-3	13:45 - 14:00	GOSATのCO2及びCH4鉛直濃度データの特徴	○齋藤 尚子 (千葉大CERES)・木本周平 (千葉大CERES)・他7名
B-4	14:00 - 14:15	Measurement of CO2 Flux from Tropical Peatland Soil Respiration in Indonesia by Nocturnal Temperature Trap Method	W. Iriana (Univ. of Tokyo)・M. Kawasaki (Nagoya Univ.)・その他3名
B-5	14:15 - 14:30	小型気球CO2ゾンデの開発とそれを用いた衛星データの検証	○松見 豊 (名大宇宙地球環境研)・大内 麻衣 (名大宇宙地球環境研)・ほか4名
B-6	14:30 - 14:45	インド水田地帯におけるレーザーメタン計による大気メタン濃度の通年観測と衛星観測との比較	○秀森 丈寛 (名大)・松見 豊 (名大)・その他13名
B-7	14:45 - 15:00	カゲ指数を用いた樹高の見積もり	○小野 朗子 (奈良女子大)・竹内 渉 (東大生研)・その他1名

ティーブレイク (15分)

学生+αポスターセッション

17:00 - 18:30

懇親会

平成28年3月18日(金) 2日目 10:00-12:00

セッションC 衛星データ処理アルゴリズムの開発と検証 (セッションチェア 森山 雅雄 (長崎大))

C-1	10:00 - 10:15	ひまわり8号AHIによる森林火災検知アルゴリズムの開発	○森山 雅雄 (長崎大)
C-2	10:15 - 10:30	ひまわり8号「日本域」データによる雲マスク作成手法の検討	○赤塚 慎 (高知工科大)・松岡 真如 (高知大)・その他3名
C-3	10:30 - 10:45	Evaluation of land subsidence using high resolution TerraSAR-X time series data in Negishi area	○Ram Avtar (UNU)・Wataru Takeuchi (IIS/UT)・その他3名
C-4	10:45 - 11:00	Validation of MODIS MCD64A1 burned area in boreal Eurasia	○朱 睿茂 (JAMSTEC)・小林 秀樹 (JAMSTEC)・その他2名
C-5	11:00 - 11:15	LandsatとDEMを用いた土壌劣化検出手法の汎用性検証	○小林 千明 ((株)インフォサーブ)・沖 一雄 (東大生研)
C-6	11:15 - 11:30	2000年から2014年までの内モンゴルの土地被覆変化	○Hasi Bagan (茨城大 農)・Zhaoling Li (筑波大 生命環境科学)・その他3名
C-7	11:30 - 11:45	ひろだい白神レーダーにおける地形影響の推定	○丹波 澄雄 (弘前大)・中井 恒志 (弘前大)・その他1名

11:45 - 12:00

ポスター表彰・開会挨拶 竹内 渉 (東大生研 人間・社会系部門 准教授)



第24回 生研フォーラム「宇宙からの地球環境・災害のモニタリングとリスク評価」



平成28年3月17日(木) 1日目 15:15 - 17:00

学生+αポスターセッション 発表一覧

ポスター番号	題目	著者
P-1	ひまわり8号AHIの幾何補正精度の年間変動	○竹内 渉 (東大生研)
P-2	植生指標を利用した危険木診断開発	○笹原 弘道 (金沢工大)・徳永 光晴 (金沢工大)
P-3	数値モデルによるGOSATのCO2鉛直データの評価	○杉村 亮 (千葉大CEReS)・齋藤 尚子 (千葉大CEReS)・その他6名
P-4	モデル及び航空機を用いたGOSATのCH4鉛直データの評価	○野々垣 亮介 (千葉大CEReS)・齋藤 尚子 (千葉大CEReS)・その他9名
P-5	航空機データによるGOSATのCO2鉛直データの検証解析	○木本 周平 (千葉大CEReS)・齋藤 尚子 (千葉大CEReS)・その他6名
P-6	時系列干渉SARを用いた熱帯泥炭地における長期的地盤沈下の推定	○角田 翔 (東大生研)・竹内 渉 (東大生研)
P-7	Air quality analysis using nighttime light for Indian urban regions	○Prakhar Misra (IIS/UT)・Wataru Takeuchi (IIS/UT)
P-8	XRAINを用いたGPM/DPRの降水強度の評価	○下妻 達也 (長崎大)・瀬戸 心太 (長崎大)
P-9	衛星画像解析を用いたソ連崩壊後のシベリア鉄道が社会経済に果たした影響の分析	○内田 聖菜 (東大生研)・竹内 渉 (東大生研)
P-10	ディープラーニングと衛星データを利用した米穀穀物の収量推定	○桑田 賢太郎 (東大生研)・柴崎 亮介 (東大生研)
P-11	様々な気象条件における降水強度と質量重み付き平均粒径の解析	○岩間 夏紀 (長崎大)・瀬戸 心太 (長崎大)
P-12	茶葉分光反射特性把握を目指したドローン付属カメラのフィルタリング検討	○荻野 高嶺 (東京農大)・○榊山 孝太 (東京農大)・その他 (6名)
P-13	地上レーダデータを使ったDPRの降雨非一様性補正の開発に関する研究	○林 翔太 (長崎大)・瀬戸 心太 (長崎大)・その他1名
P-14	多時期Landsat GLSを用いた30m解像度全球水面マスクの開発	○池嶋 大樹 (東工大)・山崎 大 (JAMSTEC)・他2名
P-15	MODIS時系列データを用いた中山間地域における耕作放棄水田判別手法の予備的検討	○佐久間 東陽 (木更津高専)・島崎 彦人 (木更津高専)
P-16	衛星SARと航空機LiDARを用いたサポートベクターマシンによる建物分類	○山本 達也 (芝浦工大)・中川 雅史 (芝浦工大)
P-17	構造物の三次元モデル作成における効率的な撮影パス	○田中 至道 (芝浦工大)・中川 雅史 (芝浦工大)
P-18	インドネシアにおける分光放射計を用いたアブラヤシ葉面分光反射特性の抽出	○荻野 高嶺 (東京農大)・島田 沢彦 (東京農大)・その他2名
P-19	時系列可視域・近赤外線空中写真を用いた北上川下流域の塩害モニタリング	○高山 翔 (芝浦工大)・中川 雅史 (芝浦工大)
P-20	Time-of-flightカメラを用いた屋内歩行可能空間提示のための地物抽出	○八十島 寛朗 (芝浦工大)・中川 雅史 (芝浦工大)
P-21	Modeling Urban Expansion in Yangon Myanmar using Landsat Time-Series and Stereo GeoEye Images	○Tanakorn Sritarapipat (IIS/UT)・Wataru Takeuchi (IIS/UT)
P-22	社会経済指標の推計に向けた夜間光衛星観測データの時空間解析	○堅山 直樹 (東大生研)・竹内 渉 (東大生研)
P-23	VOXEL Model Assisted Distributed Hydrological Modeling	○Kwanchai Pakoksung (Kochi University of Technology)・Masataka Takagi (Kochi University of Technology)
P-24	The Forest Dynamic in Ecotone Region of Terelj National Park, Mongolia	○LI Hao (Univ. of Tsukuba)・KAWADA Kiyokazu (Univ. of Tsukuba)・その他3名
P-25	Near real-time flood inundation system for the Bago basin, Myanmar	○Seemanta Sharma Bhagabati (The University of Tokyo)・Akiyuki Kawasaki (The University of Tokyo)
P-26	Spatial distribution of mangrove forest based on ALOS-PALSAR mosaic 25m resolution in Southeast Asia	○Soni Darmawan (IIS/UT)・Wataru Takeuchi (IIS/UT)
P-27	衛星データを使った全球規模の土地利用変化が土壌呼吸量と炭素収支に与える影響評価	○安立 美奈子 (筑波大)・竹内 渉 (東大生研)・その他2名
P-28	洪水警報伝達のラストマイル評価に関する検討	○小高 暁 (東大工)・川崎 昭如 (東大工)
P-29	Determining C Factor of Universal Soil Loss Equation (USLE) Based on Remote Sensing	○郭 冠霆 (東京農大)・関山 絢子 (東京農大)・その他1名
P-30	降水量分析と乾湿繰り返し風化に起因する泥岩斜面不安定化に関する研究	○新井 逸郎 (東大生研)・清田 隆 (東大生研)
P-31	ベトナムにおける伏在地滑りの検出	○MAI XUAN CANH (横浜国立大)・小長井 一男 (横浜国立大)・その他3名
P-32	高分解能SAR画像を用いた橋梁の津波被害把握	○井上 和樹 (千葉大)・劉ウエン (千葉大)・その他1名
P-33	Analysis of land cover change and rainfall on the global land surface water coverage database during 1978-2015	○李 曦 (東大生研)・竹内 渉 (東大生研)
P-34	地名から推定した潜在被災地：2015年関東・東北豪雨の鬼怒川浸水地域の事例	○岡本 勝男 (農環研)
P-35	将来の土地利用変化が洪水氾濫域に及ぼす影響の評価 - ミャンマー・パゴ川流域における防災計画支援	○米原 慎 (東大)・川崎 昭如 (東大工)・その他1名
P-36	ALOS-2/PALSAR-2データを用いた浸水域変化の時系列把握のための差分処理	○馬場 颯矢 (芝浦工大)・中川 雅史 (芝浦工大)

注1: ポスターのフォーマットは特に指定いたしません、掲示できるポスターの大きさは、最大A0縦サイズです。

注2: ポスター印刷サービスを1枚1,000円(A1サイズフルカラー印刷, 10枚のA4コピー付き)で承ります。詳細は事務局までお問い合わせください。

注3: 学生さんのポスター発表に対して、参加者皆様の投票を元に、3件の優秀発表を選び表彰を予定しております。